

## 2022 国民体育大会（栃木）視察レポート

報告者：堀 勇至（静岡県立富士宮北高等学校）

### ■目的

大会を勝ち抜くために必要なことを学ぶ

### ■分析対象

2回戦 静岡県 vs 新潟県 2 - 3

2回戦 広島県 vs 神奈川県 0 - 4

2回戦 東京都 vs 愛知県 2 - 0

3回戦 青森県 vs 宮城県 3 - 0

3回戦 東京都 vs 神奈川県 1 - 2

### ■報告対象者

コーチングスクールおよび育成に携わる指導者

### ■レギュレーション

70分ゲーム。飲水タイムなし。1回戦から決勝まで5連戦。

### ■課題・分析

#### 【攻撃】

#### ○目的(ゴールを奪う)の明確化

サッカーにおいて攻撃の目的地は「ゴール」であるため、チームとしてのスタイルは様々だが、相手DFラインの背後へのアクション（駆け引き）、ゴールからの逆算でのプレーは必要不可欠である。これがなくなると、相手のプレッシャー強度が高まり、前進することが難しくなる。まずは出し手も受け手もゴールへの最短・最速のルートを見逃さないことが重要であると強く感じた。

#### ○ブレない技術

「止める・蹴る」の技術は、各都道府県の選手、皆上手であるが、コンタクトプレーがある中でも自信を持ってプレーできる選手は少ないと感じた。相手の守備強度関係なくプレーできる所まで技術力を昇華させることが大事だと感じた。

また、インサイドでのパス（距離・スピード）技術の差が、ビルドアップの差に繋がっていた。外回り（CB→SB→SH）でのパス交換で20～30m程度の距離はインサイドで強く速く蹴れなければいけないと感じた。

#### ○効果的な立ち位置（体の向き）

人もボールも動きチャンスを多く創出できるチームには、味方・敵・スペースを観て、「いつ・どこに」ポジションを取る（立つ）ことが相手にとって脅威（そこにいるだけで相手は困ること）になるのか、を考えてポジションを取れる選手が多くいる。また、特に中盤の選手になるが、「前を向ける」選手がいるとチャンスは生まれやすい。そのためのポジショニングや体の向きは常に意識したい。

#### 【守備】

○アプローチ能力(個で奪う力)

今回印象的だったことは、1stDFのアプローチ能力・迫力（特に東京・神奈川）である。東京都の選手は、ボールの移動中（誰のものでもない時間）に、ボールを奪える距離までパワーを持って寄せられる（奪える）選手が多く、奪えない場合でも、強烈な規制がかかるため2nd、3rd DFの繋がり（連続性）もスムーズで、相手のビルドアップに大きなストレスを与えていた。日常（自チームトレーニング）でのボールを奪う意識を高くすることで、攻撃の技術力も上がると考える。

#### 【その他】

○交代選手のタイミング

青森県 vs 宮城県のゲームでは、良い流れ(決定機4つ)だが点が取れない宮城県に対して、前半20分に青森はFWを交代。前線の活性化を図り、前半ラストプレーでロングスローから先制点。後半も悪くはない宮城県だったが、後半15分にミスから失点。結果論ではあるが後半開始からの15分が空白の15分になってしまい勿体無いと感じた。

短期決戦であるが故に、ゲームの流れを変えられる選手交代のタイミングは重要である。どんな選手を投入するのか、また、戦術の変更はあるのか等は、様々なシチュエーションを想定した事前の準備（スタッフ間での共有）がとても大切な要素であると感じた。

#### 【優勝した神奈川県との差】

○蹴る技術、立ち位置、

・蹴る技術 … つける足まで拘り、味方の次のプレーを考えた正確なキック

左右差のないインサイドキックの質（距離・スピード）

・立ち位置 … 受け手と出し手で相手を観て、捕まりにくい（相手が困惑する）ポジションに立つ

1タッチでプレー可能な距離感で立つ

相手を観て局面を開くこと、自分たちのスタイルを貫きながらゴールを目指すことが全体で共有されていたと感じた。

#### ■提言

○前を向ける選手の育成

マーク・強度が激しくなる中でも相手と駆け引きができ、ボールを前に運べる選手を育てる

必要がある。

○個でボールを奪うことができる選手の育成

出し手と受け手の状況を観て、パワー持ってアプローチする（寄せる）という癖をつけ、日常からボールを奪うことの楽しさ・面白さを経験させることで「ボールを奪う」という武器を身につけさせることが必要である。

○立ち位置で制することができる選手の育成

ゴールを奪い、ゴールを守るという目的のために、常に相手を観て、相手の嫌がる立ち位置を取ることを指導者が求め、選手が思考し続ける中でプレーすることで駆け引き上手（ボールを持たずとも相手の脅威となれる）な選手が増えることが重要であると感じる。

○試合の状況を見て戦い方を変えられる選手の育成

自分たちのスタイルを貫くことも重要であるが、試合の流れや状況に応じてペースを自分たちに持つてくるために背後を取ったり、守備から入り相手のサッカーを崩したりすることができる選手を育てたい。そのために様々なスタイルのチームと試合を経験させ、選手自身が感じて考えて、成功を導きだすことを積み重ねることが重要であると感じる。

今回このような機会を与えて下さったスクールマスターの武田先生をはじめ、多くの方々に感謝致します。

今回の視察を通して、サッカーの本質「ゴールを奪う・ゴールを守る」からの逆算の中で、相手を観てサッカーができる選手を育てることが重要であると強く感じた。また、試合の流れを選手以上に敏感に感じ変化を起こすことのできる指導者でありたいと感じた。これからも、サッカーに対する情熱と謙虚で真摯な姿勢で選手とともに成長していきたい。